

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に開かれたものにするとともに利用者が地域社会の一員として生活することを支えるよう努力している。	閉鎖的なものではなく地域に生活する方々と同じように地域に属することができるようにしていきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者が職員と同じ業務に入り込み現場を共用したり会議等で理念を伝えたりすることで理念の実践に取り組んでいる。	地域における一つの『家』として定着できるよう心掛けていきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族へは契約時及び家族会等を通じて報告している。運営推進会議の構成メンバーとして同じ町内会の大家さんと町内会長さんに活動して頂いているので浸透する機会になっている。	町内会の皆さんにも日なた家の理念を理解していただける機会を設け浸透させていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	職員は利用者との外出や散歩時に近隣の方々と顔を合わせた時に挨拶を欠かさず行う。又、木や花を下さる近隣の方もいらっしゃるので付き合いを大切にしている。	町内会ボランティア活動の拠点となることができるよう取り組んでいきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会へ加入しその一員として活動している。市報をフロントに掲示し閲覧できるようにしてある。又、婦人会外出時の集合場所として施設を活用していただいている。	○ 町内の老人会のボランティア活動の受け入れに取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り 組んでいる	地域の方が見学にいらしたり、介護の相談にいら したりしているので地域に向けてできる事として 応じている。		介護の相談に応じれるよう掲示するようにしてい きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び 外部評価を実施する意義を理解し、評価を 活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価実施前の取り組み、受審当日、実施後は 職員へ実施する意味を会議等で報告している。 又、調査員のアドバイスを生かして今後の改善に 努めている。		外部評価の意味をさらに浸透させていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこで意見サー ビス向上に活かしている	二ヶ月に一度の開催頻度で会議で話し合ったこと は職員へ報告しサービスに生かしている。		管理者ばかりではなく現場の職員が出席して現場 の生の様子を伝えていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村 とともにサービスの質の向上に取り組んで いる	水戸市介護保険課、高齢福祉課、生活福祉課へ直 接足を運びアドバイスを頂きサービスに生かして いる。又、生活保護受給者の入居も受け入れ行政 の要望に応じている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成 年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々 の必要性を関係者と話し合い、必要な人 にはそれらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業と成年後見制度を利用している 利用者が各1名ずついるので関わりは深い。又研 修を受けた職員も会議を通じて報告している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている	虐待や拘束は一切無いが、内部研修は行ってい る。		外部研修への参加も行っていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には家族へ時間をかけて説明し、場合によっては持ち帰ってもらい納得して頂いた上でサインをお願いしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設けている。又、普段の業務においても利用者や家族とのコミュニケーションを大切に話を聞ける雰囲気になっている。	意見を吸いあげる体制を整えていきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	職員が分担して各利用者の家族に家族通信を毎月書いて近況を報告している。又、各自のお小遣い帳の写しと領収書を一緒に送付しチェックしてもらっている。面会時においても近況報告や相談事をユニット内スタッフで協力して行っている。その手段として電話やFAXを使うことも多い。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会が終わった後に個別に相談に応じる時間を設けたり、家族の面会時には出来るだけ管理者や計画作成担当者などが話しかけ会話をし意見を吸いあげている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホームの運営は管理者と他職員が一体となって行っている。気持ちよくケアしてもらうためには、現場の職員の意見を最大限反映している。又、管理者も夜勤の業務を定期的に行っているので経験した上で意見を聞く事が出来る。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員は入社すると3ユニット全てで実習を行い、自配属ユニットだけではなく全ての利用者に対応出来るよう訓練し状況変化に対して他ユニットヘルプなど、柔軟に対応出来るよう日頃から備えている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	年2回のユニット間職員異動を行っている。1ユニット1～2名の移動となり、一度異動となると2年位は同じユニットに定着する。		頻回に職員が変化すると利用者と家族の不安につながるので慎重に実施していきたい。
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修は最近では実施されていないが、定期的な内部研修及び外部研修の参加を促すとともに、資格取得に向けての通信教育受講も啓発している。	○	経験年数に応じた段階的な育成が不足しているので体制を整えていきたい。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	機会を作って他のグループホームを見学したり、他のグループホームの人にも来ていただき意見交換している。また、外部研修へ参加することによっても意見交換できる場所と考えている。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員がストレスを抱えていては日々の良いケアは行えないと考える。よって懇親会を催したり有休を付与してリフレッシュできるようにしている。また、職員同士のコミュニケーションを大切にしている。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	人事考課制度を採用し、職員の努力が運営者に伝わるような環境づくりを行っている。上司とも年2回面談を行い働き甲斐のある環境づくりを目指している。		働き甲斐をもつ為の一つの方法として賃金アップの実現は難しい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談の多くは不安が大きい。その都度話を聞くようにし本人の要望を受け入れるよう心掛けている。何度でも話を聞くようにして信頼関係が築けるようにすることが最優先である。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居に至るまでの家族の思いに対し、日なた家でも出来ることの見極めを行い懇切丁寧な説明を心掛けている。家族とも信頼関係を早い段階で築けるように関わっている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者が必要とするサービスがきちんと利用できるように相談の内容を細かく聞く様になっている。家族はもちろん担当ケアマネージャーからも情報提供してもらい、適確なサービスが利用できるようにしている。	ありがたいことにや退去者が少なく待機者が多いので相談にいらした方の『すぐにでも入居したい』要望に応えることが出来ないことが多い。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人がどんな環境で生活してきたのか、またどんなものが馴染んでいるのか本人や家族の話から理解し実践していくようにしている。その為に繰り返し話す機会を作っている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	今、本人が何を思うのか何を望んでいるのかを察することはとても重要であり、真の要望を聞くことが出来るように普段から時間を共有し、信頼関係作りを意識して行っている。	信頼関係構築中の利用者が数名いる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人を支える大切な存在として家族とも良好な関係を築くようにしている。面会時に家族と一緒に本人と話をする時間を設けている。その結果家族に協力を仰ぐことも多々ある。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居時の家族間の情報に加え、普段からの本人の言動や家族の面会時の様子から家族関係を察しより良い関係ができるよう支援している。入居をきっかけに本人と家族が会って話をする時間が増えたこともある。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お墓参りにお連れしたり、入居前の近所のご友人が面会できるようにしたりしている。できる限りこれまでの環境を継続させるようにしている。		馴染みの関係が継続できるよう支援を行っていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者間のトラブルも時折あるが、利用者同士で関わり助け合える環境を作っている。談話や共同作業を通じて利用者間の触れ合いがもてるようにしている。お互い居室を訪室することもある。ユニット間を超えたふれあいも大切にしている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了しても本人や家族に対する馴染みの交流は切り離せない。職員が転居先施設へ面会に出かけたり、家族が日なた家を訪ねてきてくれることもある。		契約が終了しても何かの機会に頼りにされるグループホームであるようにしていきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	まずは本人の意向や好みを理解することを優先し関わり合うようにしている。要望に完璧応えられないことも多々あるが本人の話聞くようにしている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報および本人の会話や家族の面会時に把握できるよう努めている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ゆっくりと時間をかけながら業務を通じて本人の習慣等総合的に把握するように心がけている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ユニット会議を開催しこれまでの本人の意向や家族の思いを総合的に判断し介護計画につなげるようにしている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	半年に一度の見直しを行い、変更する際には家族とも相談しながら実施している。	○ 本人にとってどのような成果が生まれたか話し合い見直しを行うようにしていきたい。普段の面会や電話連絡を通じて相談を実施している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人にとっての日々の様子が流れとして把握できるように個人記録はもちろん夜勤日誌は個人記録へ転記している。全職員が目を通す仕組みになっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	重度化になっても本人の状況に合わせて家族と話し合い医療機関への受診や訪看による点滴の実施を取り入れ、馴染みの場所での生活が継続できるよう支援している。	○	多機能という課題はまだまだ具体化されず実現できていないので今後進めていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	実際に本人の意向があつての支援はほとんどないが、職員が間に入り協力体制が形成されている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	近隣の居宅介護支援事業所と意見交換したり、入居の相談に応じたりしてる。本人の意向による自宅復帰の際に必ずケアマネージャと相談する。		自宅復帰に至ったケースが少ない。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じて相談し連携をしている。	○	連携の仕方が具体化されず課題が多い。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に今後の主治医については必ず話し合うようにしている。近隣の医療機関への切り替えにはほとんどの家族が応じて下さる。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症疾患センターとそのケースワーカーと連携し、認知症の症状に合わせて受診している。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護ステーションと契約し週に1回の定期訪問がある。また、緊急時も訪看の携帯電話へ連絡しオンコール体制が整っている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者入院時は職員が交代で面会に行くようにし本人の体調把握に努めている。退院間近には医師・看護師との話し合いの場に家族と合わせて三者で話し合えるようにして円滑に退院後の受け入れができるようにしている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に説明・同意を得ている。実際の重度化の段階では主治医と家族と職員で話し合い今後の方針を決めるようにしている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	できることとできないことの見極めを常に検討し家族へ伝え、家族の要望にできる限り応じていく体制を整えている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>何度も話し合い環境のダメージが少なくなるよう家族に十分伝えている。また、施設内の様子についても文書にて転居先施設へ報告している。</p>	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>言葉かけに関しては家族の前でも使える言葉づかいを合言葉に実行している。記録物にはすべて利用者の名前を「様」と表記したり敬語を使うようにしたり、尊厳を怠らなうような意識づけを行っている。</p>	
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>関わりの中で本人の思いが表出しやすい雰囲気にしたたり職員から出向いたりしている。そこから生み出された要望を自己決定してもらい実現できるよう支援している。</p>	
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>物事の決断の際にはまず利用者の思いになるようにしている。利用者の希望を実行した場合の満足は高い。</p>	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>月一回(第一火曜)の出張美容を利用することもできるが、希望に応じて近所の美容院へ通いカットやカラーリングができるよう支援している。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		<p>利用者の思いとしては食べ物は自分で所持していきたいのであるが、本人管理が困難な場合職員管理となる事も多く難しい課題である。</p>
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には家族の了解のもと職員管理で預かっているが、希望により所持を許容している。一緒に買い物に出かけた時には本人が支払えるような支援も行っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物の希望がでると、近所のスーパーや薬局や文具店へ一緒に出かけている。外の空気を吸うことで心が晴れやかになる方が多い。外出が困難な時でも敷地内もしくは中庭を散歩して体を動かしたり気分転換したりしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	友人や家族との外出は職員ではなかなか一緒に行けない場所であるため、こういった機会が多くあるように家族へ呼びかけている。実際外食や散歩や買い物に協力していただいている。又、ユニット内でも外食の企画をしている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に電話をかけたり手紙が書けるようしたり支援している。居室には電話が無いので事務所の電話を使ってもらうようにしている。友人から手紙が届くことも多々ある。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	毎日のように面会があり、面会者にはお茶を提供し職員から話し掛けるようにしている。面会は本人にとって嬉しいものであるので面会は大歓迎である。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は実施していないが、定期的な内部研修を行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	リスクが予想される利用者には早い段階で家族へ説明し対策を相談するようにし、抑圧のない対策を講じている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックを行い利用者の変化を早期発見できるようにしている。病院受診など早期対応も心掛けている。通院の記録をし傾向を把握できるようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は利用者の受診時、医師に適確な情報を提供し指持を仰いでいる。その際、薬の種類が過剰にならないよう意識して働きかけている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事や運動の大切さを知り心配りしている。それでも便秘している場合は医師より下剤の処方をお願いしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	起床介助や就寝介助に歯磨きなどの口腔ケアを行っている。自立で行っている方への観察も怠らないようにしている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事やお茶の際の水分補給はおかわりを促している。重度の方は水分摂取量及び排泄チェックを行い主治医から適切な水分量の指示を仰いでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアルをもとに定期的な研修を行うと思うにうがい手洗いを励行している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日まな板など塩素系漂白剤で消毒を行っている。調理する職員の手洗い及び手指消毒ができるよう環境を整えている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物周囲にはさつきの植え込みを配置し、緑を多く取り入れ親しみを演出している。又、訪ねてきてくれる人の気持ちを大切に、帰りには気持ちよく帰って頂けるよう職員の笑顔と挨拶を心掛けている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日頃から安全な環境整備を徹底している。又、季節感ができるように掲示物を工夫したり花などの飾りを積極的に置くようにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広い空間の中で長椅子や畳があり利用者同士気のあった方と談話できる空間が設けてある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室への持ち込み制限をできる限り抑え、馴染みの家具や食器を使えるように工夫している。中には仏壇（火は使わない）や冷蔵庫の持ち込みもある。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	開けっ放しに出来る空間が多い構造なので、外気を取り入れるよう心掛けている。空調管理を徹底し居室は個人の適温に合わせて対応している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の身体機能に合わせて居室のしつらえを工夫している。ベッドから落ちそうな人はマットレスのみにしたり、歩行が不安定な人は家具をつかって伝え歩きが出来るようにアイデアを出しながら行っている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自立した生活が実現できるように努めている。その際自立に向けた環境づくりが実現できるようにアセスメントし実行している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	広い人工芝の中庭があるので各ユニットから自由に行き来できるようになっている。職員の付き添いが必要な人もいるが、体操したり歩いたりお茶を飲んだりして過ごすことができる。この空間は開放的なので利用者のストレス軽減に繋がると考えている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホームという施設の枠にとらわれず自宅で生活することと変わらないサービスが実現できるよう目指している。利用者が年齢を重ねることによって現れる心配事が家族や職員とのコミュニケーションを通じて明るいものになるよう支援していきたいと思う。その結果認知症の進行を軽減し本来のグループホームの役割が実現できるように考える。日なた家では職員が明るく気持ちにゆとりをもって利用者と接しているので表情が明るいと感じる。一人にじっくり接するように心掛けてもいる。中庭の人工芝も散歩や体操の場所として大いに活用しているので開放的な空間である。又、平屋の建物を生かして3ユニット間の行き来を自由に行っているため利用者にとってもは足の運動や気分転換になる。このまま日なた家が安定して利用者を支援し家族の要望を取り入れながらさらに発展していけたらと思う。